

《2022年度 ICD日本部会 総会・認証式 特別講演》

雅楽とは その歴史と三つの管楽器のご紹介

十二音会会員
日本音楽集団団員
オーケストラアジア団員
雅楽演奏家



西原 祐二

●抄録●

現在の雅楽は洋楽のオーケストラと同様に、管楽器、絃楽器、打楽器より編成されており、『世界最古のオーケストラ』と呼ばれております。

また陰陽五行節によりますと、『笙は天の声、箏は地の声、龍笛は天地を行き交う龍の声』といわれ、三つの管楽器の三位一体の融合でこの宇宙世界を表しているといわれております。その雅楽の歴史と三つの管楽器をご紹介します。

キーワード：陰陽五行説、ササン朝ペルシャ、シルクロード、^{くにぶりのうたまい}国風歌舞、大陸系の楽舞—唐楽と高麗楽、歌物

雅楽の源流は、広大な古代アジア大陸の中のインド北部やベトナム辺りより発生した音楽や楽器がシルクロードを通して中国に伝わり、また1400年～1500年前の中東ササン朝ペルシャ（現在のイラン辺り）で発生した楽器や音楽が同じくシルクロードを通り中国へと伝わりました。多くの様々な楽器や音楽と古代中国の文化・音楽が中国の中で300年程かけて融合し統一され、我が国へは飛鳥時代から平安時代初めの400年間に、その楽器や音楽が運ばれ伝来を致しました。そして平安時代中期までには日本人の手による作曲も盛んに行われ、現在伝承されている雅楽が完全に出来上がりました(図1)。

雅楽は次の三つのジャンルに分ける事が出来ます。一つ目は神楽歌、^{あずまあそび}東遊、^{くにぶりのうたまい}久米歌などの「国風歌舞」(図2)。二つ目は、現在の雅楽の中核を成す唐楽と高麗楽の「大陸系の楽舞」で、5世紀から9世紀初めまでの約400年間に朝鮮や中国等から伝来したアジア大陸諸国の音楽や舞に基づき、平安時代に完成した器楽と舞です。^{さほう}左方と^{うほう}右方とに分け、左方は中国、中央

アジア、インド方面に起源を有する楽と舞で、これを「唐楽」と呼び(図3)、右方は主に朝鮮・満州方面に起源を有する楽と舞で、これを「高麗楽」と呼びます(図4)。三つ目は平安時代に作られた朗詠と催馬楽の「歌物」で、現在の雅楽演奏会でも盛んに演奏されています。

次に雅楽で使われる三つの管楽器(図5)のご紹介ですが、^{しょう}先ず笙という楽器。鳳凰が翼を立てて休む姿に似ている所から鳳笙と呼ばれ、英語ではマウスオルガンとも呼ばれています。17本の細い竹を束ねており、その中の15本の竹の一番下に、^{さ、はり}響銅(=銅と錫の合金)で作られたリードが付いていて、竹の下部に開けてある小孔を指で塞ぐ事により、リードが竹に共鳴して鳴る構造になっています。5本～6本の竹の指孔を同時に塞ぎ、それを同時に鳴らす^{あいたけ}合竹という奏法が主な奏法ですが、朗詠・催馬楽では一本の単音で奏することもあります。この楽器は息を吹いても吸っても同じ音が出るという事が一番の特徴で、この事は世界中の楽器に類を見ません。



図1 管 弦



図2 国風舞



図3 唐楽（萬歳楽）



図4 高麗楽（仁和楽）



図5 管楽器三種

次に^{ひちりき}箏篳ですが、この楽器はササン朝ペルシャで発生し、シルクロードを通して西へ行きオーボエやファゴットになり、東へ来て箏篳になったといわれています。長さ18.5cmで前に7つ、後ろ側に2つ指孔があり、桜の樹皮を細く紐状にしたものが巻かれています。管の内側には堅く滑らかにする為何度も漆が塗られ、これに^{あし}蘆の茎で作ったリードをつけて吹きます。リードの長さは約5.5cm、太さ約1.65cmで、上部1/3程をつぶし、音が出るように薄く削り、また音質と息の入り具合を調整するために、籐で作った^{せめ}世目という輪をはめて吹きます。箏篳は雅楽の中では主旋律を担当し、常にメロディを吹きます。素朴で力強い中に悲しさを秘めた様な音色で、小さな楽器に似ず大きな音が出ます。また指孔を替えずに3度近くの幅で音

程を滑らかにグリッサンド的に上下させる「^{えんばい}塩梅」という独特の奏法が特徴です。

最後に横笛ですが、雅楽に用いられる笛には^{かぐらぶえ}神楽笛、^{りゅうてき}龍笛、^{こまぶえ}高麗笛の3種類があり、神楽笛は長さ45.5cm、6つの指孔があり、最も低い荘厳な音色が致します。宮中賢所の『御神楽ノ儀』で奏される尊き楽器とされております。次に龍笛は長さ40cm、7つの指孔があり、雅楽の中では一番利用度が多く、箏篳の主旋律に対し龍がからみ付くように装飾的な旋律を吹くので、また龍の鳴き声の様な音が出るので龍笛と呼ばれています。最後は高麗笛。龍笛より短く、長さ36.3cmで指孔は6つ、龍笛よりも更に鋭くかん高い音が致します。以上でございます。

Gagaku — Introduction to Its History and Three Wind Instruments

Member of Gagaku Jūni-on-kai/Member of Pro Musica Nipponia
Member of Orchestra Asia
Gagaku player

Yuji NISHIHARA

Gagaku today is organized similarly to Western orchestras, consisting of wind, string, and percussion instruments, and is called “the world’s oldest orchestra”.

According to the Theory of Yin-yang and Five Elements, it is said that “the sho represents the voice of heaven, the hichiriki represents the voice of earth, and the ryuteki represents the voice of the dragon that travels between heaven and earth”, and that these three wind instruments, in their unity, symbolize the universe.

This paper introduces the history of Gagaku and the three wind instruments.

Key words : Theory of Yin-yang and Five Elements, Sasanian Persia, Silk Road, Kuniburi-no-Utamai, Continental Music and Dance - Togaku and Komagaku, Utaimono